

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501845		
法人名	有限会社 ユアスタッフ		
事業所名	グループホームもいわの里 石山館 うれし荘		
所在地	札幌市南区石山3条7丁目3番12号		
自己評価作成日	平成25年8月30日	評価結果市町村受理日	平成25年10月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成25年9月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1 困難ケアへの取り組み 「重度化」「終末期」「看取り」「若年性認知症」等、ユニットの現状と正面から向き合い、各々の経験を活かし、更なる向上を目指してチーム力の強化を図っている。</p> <p>2 季節感 外で過ごせる季節は、毎日ホームのガーデンで外気浴を楽しんでいただくことをケアプランに組み込んでいる。地域のロケーションや季節の花々・空の色・新鮮な空気など、季節感をたっぷりと味わいながら野菜の収穫やベンチで談笑・歌・ティータイムの時間を過ごして頂いている。冬期間は、ベランダの窓を開放し、太陽の光を浴び深呼吸をしたりと外の世界を感じていただいている。</p> <p>3 スキルアップ 毎月、自施設内研修を開催し、個人がテーマを決め個人発表の場を設定したり、栄養士による「高齢者の栄養・メニュー作り」・薬剤師による「薬の理解」・看護師による「感染症対策」・権利擁護・介護保険の仕組み・事故対策・緊急時対策等、介護者にとって基本的且つ重要な知識を、事業所に関係する専門職や職員が勉強会を主導している。また、演習を通して楽しく知識を得られる「わいわい演習塾」に職員は意欲的に参加している。</p>

札幌市郊外の閑静で緑豊かな住宅地に建つ、2ユニットのグループホームである。事業所の敷地内には、菜園や花壇があり利用者が手入れや収穫を楽しんだり、花々を眺めながらテラスでティータイムを過ごす等、憩いの場となっている。事業所内は廊下やリビングが広く、動線を考慮したゆったりとした造りで、採光や換気に気を配り整理整頓され、明るく清潔に保たれている。利用者の手作り作品は、すぐに目に留まる場所に置き、いつでも見ながら会話が弾むように配慮している。町内会や地域住民との交流も多く、町内会行事の参加や、当事業所の行事には地域住民が参加しており、ボランティアや実習生の訪問もある。利用者の生活に変化をつけるために、年間行事が多々組み込まれており、家族参加の行事も多く、家族会も結成されている。職員の資質向上には力を入れており、内外の研修に積極的に参加し、介護福祉士や介護支援専門員の資格を取得している。管理者・職員が一体となり、利用者の人間性を尊重するという理念の基に、いかに心地よく過ごすことができるか、日々努力している温かい事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	健康維持・家族との連携・地域での潤いある暮らし・尊厳を重視した理念を作り、最大限実践につなげられるよう、演習や研修テーマなどで、日常的に具現化や確認を行っている。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念は、リビングや職員休憩室に掲示している。会議で話し合いの基、再確認しケアサービスに反映している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや町内会の清掃奉仕など、地域の自然や方々との交流や近所から季節の野菜や果物などの差し入れがあり、地域で暮らすあたたかさや喜びを感じていただいている。地域主催の講演会などの地域事業には積極的に参加し、つながりを大切にしている。	町内会や地域住民と交流しており、事業所の行事には地域住民の参加がある。読み聞かせや、小学校のボランティア等が来訪し利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	就労支援の登録や読み聞かせボランティアの受け入れ等を積極的に行い、地域の方々の生きがいの場を提供させていただいている。また地域の高齢者や家族に向け、認知症の知識や理解・支援方法を伝えていけるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に、生活リポートを報告し、より豊かな生活を目指して構成員から貴重なご意見を頂いている。また毎回テーマを決め、介護保険・認知症など専門的な視点から情報を発信している。	2ヶ月に一度開催されており、利用者の状況・行事報告・ヒヤリハット・防災計画等について協議している。消防署員の参加もあり、家族には呼びかけや報告をしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市・地区のグループホーム管理者連絡会、ケアマネ研修会・地域運営会議等での市や区の担当者との情報交換で連携を密にしながら、事業所の実際やあり方を見直す機会を得ている。	市や区のグループホーム管理者連絡会議に参加し、情報を共有している。行政とは常に相談しながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自施設内研修において身体拘束廃止委員会や勉強会を定期的に開催し、「本人の自由な行動を制限する」や「切迫性・非代替性・一時性」等定義や原則の具現化を行い、身体拘束による弊害を事業所全体で正しく理解し、尊厳を支える生活を実践している。	事例を基にしながら話し合いをするなど、職員の理解が深まるよう工夫しながら研修を行っており、身体拘束廃止委員会もある。利用者の自由な生活を尊重し、見守り支援を徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	グループホームの倫理規定に基づいて遵守し、高齢者虐待防止法の勉強会を定期的実施している。事業所内においては「絶対に起こさない」「見逃さない」「許さない」ことを徹底し防止している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度や福祉権利擁護の研修会等に参加し、事業所全体で知識を得る機会を持っている。成年後見人制度を利用している方を通して、実践で学び、さらに有効に活用できる支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書・契約書を提示し、丁寧にわかりやすい説明に努め、理解・納得・同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々、利用者・家族が意見や要望を表せることが出来るよう努め、真摯な姿勢で耳を傾けて事業所の質の向上につなげている。また苦情の窓口を設け、事業所内で共有化してサービスの向上に努めている。	利用者や家族の意見、要望を取り入れ、ケアに反映している。事業所のホーム便りはカラー写真で編集し、利用者の様子をわかり易く工夫している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や面談、日々のコミュニケーションを通して、運営に関連する話題を心がけ、日常的に職員が意見を述べやすい環境作りを努めている。職員の自由な発想を大切にしている。	全体会議の他、各職員の意見や報告等を細かく把握しケアの実践に反映している。外部の研修会にも積極的に参加し、職員の資質向上に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを持って就業できるように、人事考査基準で個々の努力や実績が給与水準アップに反映されている。また職員がストレスを溜め込まないようにストレスチェック表などで、メンタルのサポートを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員を対象に段階に応じた外部研修を受講する機会を確保している。毎月テーマを決め、委員会や個人、代表者や管理部門が主導となる勉強会や演習を自施設内で開催している。個人研修の発表を通して、職員一人ひとりのスキルやモチベーションの向上につながっている。楽しく演習を行う「ワイワイ演習塾」は、職員の間で好評となっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の福祉法人の主催する定期の研修会に事業所全体で協力・参加し、ネットワーク作りを行っている。また事業所見学や実習者の受け入れも積極的に行い、交流や学び合う姿勢を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活上の困りごとや、様々な不安や要望を本人から伝えやすいように、傾聴や受容・共感の基本的姿勢を心がけ潜在的な感情の理解や信頼関係の構築に努めている。心理行動症状等の生活困難者には、背景などを鑑みてリロケーションダメージをいち早く回避できるような良質のチームケアに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者に対する家族の様々な思いを理解し、共感姿勢で受け止めるように努めている。また、本人と家族の距離が縮まっていくような支援を心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談から利用までの過程で十分な情報収集と現状や背景など視点を拡大したアセスメントを行い、潜在化している事柄を含め、本人らしい暮らしの支援ができるよう見極めをしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者の経験や知恵から学びを得る姿勢で、ホーム理念である「高齢者を人生の先輩として敬う」を実践し、認め合い支えあう関係作りを大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と利用者の良質な関係作りが継続できるよう、ホーム来訪時にはケアの一員として、職員は家族の一員としての協同意識をもった場面作りを心がけている。面会が少ない方には、ケアプランに通信支援を入れて利用者本人が自筆の便りを出すサポートをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・親戚・友人等の来訪を心から歓迎し、関係の継続を支援している。希望者には可能な限り懐かしき場所の訪問を援助する体制がある。	商店街への同行や墓参り等、これまでの人間関係や馴染みの場所との関係が継続出来る様に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	和やかに楽しく過ごせるアクティビティの時間を設けている。その時・その場にあったメニューの取り組みにより、寂しさを感じるような時間を回避している。特に小グループでのコミュニケーション作りを力を入れ、読み語りや回想法・談笑などで利用者同士、共感したり励ましあったりする場面が数多くみられている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、希望に応じ可能な情報提供やサポートなど、これまで培ってきた関係を大切に、バックアップに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人をより深く理解する努力と「日々アセスメント」の意識を持って、言葉にできない想いや希望を察し、受け止め、利用者本意を最優先している。	個々の生活歴を参考に、利用者が何を求めているか、日ごろの行動や言動等で把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族への細部に渡る聴き取りや、これまでのサービス利用の情報提供等により、馴染みの暮らしの把握に努め、安心に繋がられるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アクティビティメニュー(生活レク・生活リハ)やコミュニケーションを通し、日々の暮らしぶりを広い視点から総合的に現状把握し「生活に密着した充実」につなげられるように支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネの監修の下、職員全員が個々の担当者のケアプランの原案作りに関っている。本人・家族の意向に沿って、現状に合った適切なケアが受けられるようなサービス計画をチームで作りに上げている。	定期的なモニタリングを行ない、利用者の変化や対応について、家族・職員・医師と話し合い、利用者がより良く暮らせるための介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の詳細な様子が共有できる叙述体の個別記録となっている。サービスの実施にはチェック項目があり、状況と達成度を把握しモニタリングができサービスの見直しに有効となっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員各々の資格・得意分野・係活動を活かし、精神的・身体的サポートや、本人・家族の意向に沿った多様なニーズに応えられるような支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域運営推進会議や近隣の方々など、地域に根ざしたネットワーク作りに努めている。地域の方によるボランティア活動は、両者にとって豊かな時間を共有し信頼関係が構築されている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週の主治医の在宅診療で、医師や看護師に気軽に相談できる関係作りをしている。他科受診時は、主治医との連携によりスムーズな診療に繋げている。	利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。常に医師や看護師と連携を取り、薬の見直し等により、利用者の状態も回復傾向にある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に4回、在宅診療や訪問看護での医療連携体制により、利用者をよく知る看護師と健康管理について相談できる関係が作られている。また月2回、テーマを決めて様々な角度から医療についてのアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心できる入院生活を送ることができるように、介護添書には本人に添った認知症状の対応を情報提供している。早期退院に向け、情報交換を密にし医療との連携に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期について、日常的に本人・家族の希望や意向を伺っている。事業所の機能を理解していただいた上で、家族も含め可能なことを本人本意で考え話し合い、前向きにチームで取り組んでいる。また「看取り」についても慎重に関係者(医療・事業所・家族)で、話し合い状況によっては取り組める体制をとっている。	医師・事業所・家族が三位一体となり、どの様に終末期を迎えるか話合っている。事業所では看取りの経験もあり、職員の意識向上につながっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	口頃から利用者の身体機能に沿った対策を個別にたてている。応急手当や心肺蘇生の施設内研修を定期的に行い、職員間の周知・連携を強化している。わかりやすい指図書も作成している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練と全体会議や自施設内研修・訪問看護などで、日常的にシミュレーションや事例検討等、冷静に対応できるように取り組んでいる。また、地域の方の協力が得られるように、避難訓練や推進会議等で消防署の啓蒙活動に参加していただいている。	管理者は札幌防火管理者協議会連合会に入会している。消防署の協力のもと、地域住民参加で避難訓練をし、災害時には、家族と連絡がつく様に伝言ダイヤルを伝えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム理念にある基本姿勢をケアに反映させ、尊厳を支えプライバシーを守る対応を重視している。	利用者の尊厳を大切にし、プライドを傷つけないように、呼びかけや声掛けに留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを引き出しやすいように・表出しやすいように、意図的に閉ざされた質問などで自己決定の場面作りをしている。またゆっくり・誠実に・わかりやすく説明し納得してから自己決定ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援し	個々の生活スタイルを尊重し、心地良く毎日が過ごせるように希望に添った支援をしている。また、「パーソンセンタードケア」について学び合う勉強会を開いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	年齢や生活歴に添ったお洒落を楽しんでいただいている。口紅支援が定着し、鏡を見て喜ばれている姿があったり、訪問美容では、本人の言葉で好みのヘアスタイルを伝えるサポートをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	「作る楽しみ」「食べる喜び」を感じてもらえるよう、メニュー作成に関わってもらったり、食材選びや野菜の下処理など利用者の力に応じた場面作りを実施している。また「手打ちうどんや」「イカ飯」など、昔懐かしいメニューを主導してもらい、昔取った杵柄を發揮する場面を作っている。	職員も利用者と一緒に同食し、家族的な雰囲気を作っている。利用者の嗜好を取り入れたメニューを作り、見た目にも美しく盛り付けされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隔週で、利用者の身体状況や嗜好を良く知る栄養士が立てたメニューを取り入れ、バランスの良い、目でも楽しめる豊かな食生活になるよう支援している。季節や好みに合った飲料を用意し、おいしいと思って水分摂取できるように支援しているため、水分量の確保に繋がっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの大切さを利用者にも理解してもらい、毎食後の口腔ケアが定着している。口臭の軽減・歯茎の健康維持が出来る。また、介助が必要な方には、残渣や食渣、磨き残しのないようさりげなく援助し、口腔内の清潔保持のサポートをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握で、失敗の場面が回避されるように努めている。重度化になっても便座に着座して快適な排泄ができるよう取り組んでいる。また出来る限り綿の下着を着けていただき、最小限のパッドやリハビリパンツですむような支援をしている。	個々の排泄パターンを把握し、排泄の自立支援をしている。トイレの収納等も使い易く工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による身体的影響・精神的影響を職員が理解し、排泄パターンの把握や繊維質の多いメニュー作り水分の確保を心がけている。また腸の働きが促進する運動にも取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や気分をみながら、希望の時間を決めてもらい心地良く入浴できるように支援している。安心・安全な入浴介助技術の工夫や習得、ゆっくりとコミュニケーションを取りながら、待ち遠しくなるような入浴シーンを心がけている。	基本的には週2回だが、利用者の希望や状態に合わせて入浴をしている。又羞恥心や尊厳に配慮し、コミュニケーションをとりながら入浴できるよう、支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢や体質に応じて、バランスの良い休息ができるよう援助している。夕暮れ時に行う「タクティールケア」の実施や職員の穏やかな振る舞いやトーンダウンを心がけ、心静かに眠れるような支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々、個々の処方薬の目的・副作用・用法・用量を確認し正しい理解ができるように努めている。新処方服薬後の細かな観察を行い、変化の確認をし、医療との連携に努めている。誤薬防止のためセットから服薬までを複数のチェック体制をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の個々の楽しみや役割、昔取った杵柄等、力が発揮できるアクティビティで張り合いや自信に繋がれる支援に努めている。また春夏秋冬は毎日、ホームガーデンでの外気浴を行い、季節を感じながら、談笑や歌会・ティータイムで楽しめるを設定している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々、利用者の希望を把握できるよう心がけ、計画的に行きたいところへ出かけられるよう支援に努めている。また“行くまでの楽しみ”を大切にコミュニケーションにつなげて外出への喜びを感じていただいている。	一人ひとりに合わせ外出支援を行っている。行事外出も多く、地域での生活が体感出来る様に考慮している。外出が難しくなる冬季には少しでも外気にふれてもらう様に工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	物を購入したり適正な金額の買い物ができるよう、本人の力に応じた品物選びや支払いの見守りの支援を行っている。またお孫さんにお小遣いをあげるような場面では、本人の喜びと一緒に分かち合っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の力に応じ、手紙や電話での通信支援をケアプランに組み入れ、家族や大切な方との良好な関係性が継続できるような支援をしている。支援によって家族の来訪や電話が増えている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫を	活動時間帯や休憩時間帯など、場面に合わせた照明や声のトーンの配慮をしている。また行事・日々の生活の写真や季節の壁飾りを掲示してコミュニケーションにつなげている。	明るくゆったりとしたリビングや廊下には、利用者の手芸作品が飾られ、行事の写真も見易く、家族が来訪しても楽しめる様に工夫している。採光や換気等にも注意し清潔で居心地の良い空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室と同じ造りの談話室で、居間の雰囲気を感じながら気の合う利用者同士が語り合ったり、スタッフとマンツーマンでの寄り添いができるスペースがある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	休息をしながらも今の雰囲気が伝わり、寂しい思いや孤独を感じたりすることがないように居間を囲んで居室があるという設計になっている。また居室はなじみのものや使い慣れたものを手にしやすい場所に配置したりと、居心地よく過ごせるような支援をしている。	居室には、使い慣れた家具や仏壇等が置かれ、家族の写真が飾られ馴染みの物に囲まれそれぞれの生活観が感じられる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物には小さな段差がなく、玄関などのあがりかまちには、はっきりと段差をつけて注意力を以て、安全な移動ができるように配慮している。専用玄関には、高齢者が無理なく靴が履くことのできる高さの折り畳みベンチを壁に設置している。		